

## 利用定員等計画数値と平成29年度予定数値の比較

区域	計画年度	利用者区分	①量の見込み	②確保の内容				②-①	
				特定教育・保育施設	確認を受けない幼稚園	地域型保育事業	認可外保育施設		
市域全体	平成29年度 計画数値	1号認定	2,448	3,635	1,356	—	—	1,471	
		2号認定	学校教育を希望						1,072
			上記以外	6,338	6,563	—	—	254	479
		3号認定	0歳児	1,317	1,134	—	3	42	-138
			1・2歳児	3,789	3,577	—	80	135	3
	平成29年度 申請数値	1号認定	2,448	2,318	1,892	—	—	690	
		2号認定	学校教育を希望						1,072
			上記以外	6,338	7,365	—	—	248	1,275
		3号認定	0歳児	1,317	864	—	37	97	-319
			1・2歳児	3,789	3,699	—	94	297	301

◆計画数値＝「富山市子ども・子育て支援事業計画」第4章に記載の数値

◆平成29年度申請数値＝教育・保育施設から申請のあった利用定員による数値。

※ 計画数値との比較においては、0歳児については、319人の供給不足となっている。

一方、実際のニーズとの比較においては、途中入所により最も入所児童数が増える年度末（平成28年3月）の0歳児の入所者数が1,208人であり、今年度末の児童数を同数と仮定した場合、実際のニーズにおいても210名の供給不足となる。

このことについては、利用定員の設定は、公定価格単価への影響から、特に私立施設において低めに設定されている（年度当初の入所数を基に設定）場合が多い事が考えられ、実際には、年度途中の入所希望に合わせて、人員要件、面積要件を満たす範囲で利用定員を超えて受け入れを行っている事を勘案すると、一定程度供給不足の解消が見込まれる。

しかしながら、入所希望者数の増加傾向が続いており、希望通りの保育所等に入ることができない場合があるなど、保育の供給量に余裕の無い状況が続いていることから、引き続き、積極的な受け皿の確保に取り組んでいく必要がある。